

短期大学部 ライフデザイン学科

<p><b>建学の精神教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、仏教の人間観及び京都光華の学びを置く。</li> </ul>
<p><b>ライフデザインスタンダード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの分野に進むのにも必要な5つの学びの基礎（学びの姿勢、学びの知識、学びの目的、学びの能動性、学びの発展）と多様な観点から社会人基礎力を育成するためにライフデザインスタンダードを置く。</li> <li>・具体的にはライフデザイン、コミュニケーション、社会を学ぶ、ビジネス基礎、情報基礎、グローバルの各分野を置く。</li> </ul>
<p><b>ライフデザインプロフェッショナル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会のニーズに対応するため、多様な専門分野を配置し、各専門分野の学びを通して専門知識、スキルを身につけると同時に、分野にとらわれないジェネリックスキルを身につけるためにライフデザインプロフェッショナルを置く。</li> <li>・具体的にはファッション、ブライダル、フード、インテリア、デザイン企画、医療事務、エンターテインメント、観光の各分野を置く。</li> </ul>
<p><b>カリキュラムの実施方針</b></p> <p>(1) 授業手法 能動的な学びの姿勢を身につけ社会人基礎力を養うために、学科として各科目の授業内容のみならず授業方法にも留意し、組織的にアクティブ・ラーニングを取り入れる。</p> <p>(2) 履修指導 学期ごとに学科オリエンテーションを実施し、履修指導にあたる。クラスアドバイザーは履修登録状況を個別に確認するなどの対応を含め学生の履修指導を行う。また、各学期中に行う個人面談を通じて履修状況や希望進路などを確認し、適宜必要な履修指導を行う。</p> <p>(3) 学修支援 多様な専門分野の学びを深めるため、学内外でのさまざまな企画を、授業で学んだ知識の定着と発展の場として活用する。また、学生の自発的学修の契機とするため授業内外で資格取得のサポートを行う。</p> <p>(4) 評価 (成績評価) 科目の到達目標に対応した多面的な評価方法を採用し、総合的な評価を行う。</p> <p>(到達目標評価) 科目の到達目標に対する達成度を、教員が評価すると同時に学生も自己評価し、両者を比較することで科目ごとの達成度を客観的に自覚することができるようにする。</p> <p>(ディプロマポリシー、ミドルレベルディプロマポリシー評価) 科目の到達目標の達成度を集約することにより、ディプロマポリシー・ミドルレベルディプロマポリシーの項目ごとに達成度を表示し、学修目標の設定や学生指導に役立てる。</p>

歯科衛生学科

<p><b>（１）建学の精神教育</b></p> <p>・現代社会に生きる女性として思いやりの精神をもって、社会とかかわりを持ちつづける価値観や態度を身につけるために、「仏教の人間観」及び「京都光華の学び」を置く。</p>
<p><b>（２）基礎分野</b></p> <p>・一人ひとりの健康に寄り添い、他者を理解し適切なコミュニケーションを身につけるための必修科目を置く。</p> <p>・人間や社会についての理解を深めるため、情報分析の基礎や多様な背景を持つ人々への理解と社会貢献、科学的思考等に関する科目を置く。</p>
<p><b>（３）専門基礎分野</b></p> <p>・人体、歯、口腔の構造と機能を学ぶための科目群を置く。</p> <p>・全ライフステージにおけるう蝕や歯周病などの病態や病因、予防法や治療薬の基礎を学ぶための科目を置く。</p> <p>・咀嚼や嚥下などの正常な口腔機能と病態の理解に必要な基礎的事項を学ぶための科目を置く。</p>
<p><b>（４）専門分野</b></p> <p>・歯科衛生士の業務を修得するための実習科目を置く。</p> <p>・乳幼児期から高齢期および障がい者のう蝕や歯周病の特徴と治療法を学ぶための科目を置く。</p> <p>・口腔機能の病態と検査法および治療法、周術期や在宅での口腔機能管理の知識と技能を学ぶための科目を置く。</p> <p>・歯科衛生業務に関する疑問や課題について主体的に研究し、自己の知識や理論を探索する科目を置く。</p>
<p><b>（５）選択必修</b></p> <p>・多職種連携やチーム医療、地域社会における集団歯科指導等多様な実習科目を置く。</p> <p>・ICT リテラシーの向上と習得への第一歩として、パソコン等の情報端末の管理、学内ネットワークの利用、レポート作成のポイント、各種分析方法の基礎、プレゼンテーションのポイントなどを実践的に学ぶ科目を置く。</p>